

「女性座長候補者リスト作成のためのアンケート」結果報告

¹⁾日本泌尿器科学会ダイバーシティ推進委員会, ²⁾徳島大学泌尿器科,
³⁾岡山大学泌尿器科, ⁴⁾札幌医科大学泌尿器科, ⁵⁾藤田医科大学腎泌尿器外科,
⁶⁾昭和大学泌尿器科, ⁷⁾東京警察病院泌尿器科, ⁸⁾済生会中和病院泌尿器科,
⁹⁾佐賀大学泌尿器科, ¹⁰⁾筑波大学腎泌尿器外科, ¹¹⁾東京大学医科学研究所附属病院泌尿器科,
¹²⁾いちおか泌尿器科クリニック, ¹³⁾大阪母子医療センター泌尿器科,
¹⁴⁾東京大学泌尿器科, ¹⁵⁾金沢医科大学泌尿器科

山本恭代^{1,2)} 小林知子^{1,3)} 西田幸代^{1,4)} 佐々木ひと美^{1,5)} 前田佳子^{1,6)}
増田朋子^{1,7)} 松下千枝^{1,8)} 川崎麻己^{1,9)} 木村友和^{1,10)} 高橋さゆり^{1,11)}
吉川武志^{1,12)} 松本富美^{1,13)} 舩森直哉^{1,4)} 久米春喜^{1,14)} 宮澤克人^{1,15)}

(連絡先)

山本恭代 〒770-8503 徳島市蔵本町 3-8-15 徳島大学泌尿器科
E-mail ; yasuyoyamamo@tokushima-u.ac.jp

緒言

本邦における女性医師の割合は年々増加しており、同様に日本泌尿器科学会（JUA：The Japanese Urological Association）の女性会員数も増加傾向にある。2000年はわずか1.8%であったが、2023年は8.5%と増加の一途をたどっている。しかしながら、指導医資格を有する女性会員は少なく、日本泌尿器科学会総会や各地区総会において、座長やシンポジストを担当する女性の割合も少ない。日本泌尿器科学会ダイバーシティ推進委員会は、女性医師のみならず会員のキャリア支援を行うことで学会の発展を目指して活動を行ってきた。2021年にJUAの理事会へダイバーシティ推進のために女性座長比率を3%以上とすることを要望の一つとして提案した。実現のために指導医資格を有する女性会員を対象に座長候補者リストへの掲載の諾否、専門分野、保有資格についてアンケート調査を行い、座長候補者リストを同年から作成した。リストは各大会長に提出し、活用を依頼した。リスト作成後にすべての総会において、女性座長数が3%以上を達成したため、取り組みについて報告する。

対象・方法

2021年、2022年の3月、本委員会で「女性座長候補者リスト登録希望」アンケートを作成した（Fig. 1）。各年の2月末時点でメールアドレスを登録している指導医資格を有する女性会員2021年は202名、2022年は219名に対し、学会事務局より3月上旬にメール配信しGoogleフォームのアンケートリンク先を周知した。メールの開封率は2021年が130名（64.4%）、2022年が138名（63.0%）であった。回答期間は2021年11日間、2022年は13日間とした。2021年は102名（78.5%）、2022年は89名（64.4%）からの回答を得た。尚、本アンケートは日本泌尿器科学会理事会の許可を得て行った。

結果

1) 回答者の背景について

回答者の所属支部、役職、専門医更新回数、学位の有無をTable 1に示す。所属支部は、2021年、2022年で東部Aが37名（36.3%）、29名（32.6%）、東部Bが15名（14.7%）、10名（11.2%）、中部が24名（23.5%）、22名（24.7%）、西日本が26名（25.5%）、28名（31.5%）であった。役職については、2021年と2022年の調査で選択肢の項目を一部変更したが、2年ともに教授3名（2.9%、3.4%）、2021年は准教授・講師が14名（13.7%）、2022年は教授以外の大学教員が25名（28.1%）だった。教育施設の部長は2021年12名（11.8%）、2022年11名（12.4%）、その他はそれぞれ73名（71.6%）、43名（48.3%）であり、2022年に追加した自施設の院長が7名（7.9%）であった。専門医の更新回数は、1回、2回、3回、4回以上が2021年は27（26.5%）、27（26.5%）、20（19.6%）、28（27.5%）名、2022年は22（24.7%）、22（24.7%）、23（25.8%）、22（24.7%）名と更新回数による違いは見られなかった。学位の有無については、有が2021年は62名（60.8%）、2022年は55名（61.8%）、無は40名（39.2%）、34名（38.2%）であった。

2) リスト掲載の許諾について

女性座長候補者リスト掲載の許諾については、諾と回答したのは2021年57名（55.9%）、2022年56名（62.9%）で、アンケートの回答者数が減ったにも関わらず、ほぼ不変であった。否と回答したのは、それぞれ45名（44.1%）、33名（37.1%）であった（Fig. 2）。2022年調査における各支部別リスト掲載の諾否については、東部A、東部B、中部、西日本において、諾が18名（62%）、6名（60%）、15名（68%）、17名（61%）であり、支部別の違いはみられなかった（Fig. 3）。また、専門医の更新回数別では、1回、2回、3回、4回以上でそれぞれ5名（23%）、12名（55%）、18名（78%）、21名（95%）と更新回数が増加すると諾と回答する医師が増加した（Fig. 4）。

3) リスト掲載の不承諾の理由について

リスト掲載を不承諾とした回答者の理由をFig. 5に示す。重複回答も含めて最も多かったのは、「現在の状況では受諾が困難」というものであった。状況については、職場環境によるものや回答者自身や家庭環境などプライベートに関わるものなどが想定されるが、今回のアンケートの調査項目に含めていないため、詳細は不明である。次に多い理由は、「学会座長に興味がない」であり、回答者自身の能力不足、性別による優遇を受けたくない、といった理由もあった。

自由記載では、回答者自身による不承諾の理由として、自信がない、力不足である、座長ができるレベルにない、身の丈を超えている、恐れ多い、高齢、病気療養中との意見がみられた。勤務先が専門医教育施設でないため、指導医が失効するという理由もあった。性別による優遇を受けたくない、女性であるという理由で選出されたくない、というポジティブ・アクションを拒むものもあった。

4) 専門分野について

座長の諾否に関わらず、リストに登録を希望する専門分野について第一希望、第二希望を問うアンケート結果をFig. 6に示す。2021年、2022年ともに女性泌尿器科が最も多く、次に多かったのは排尿機能・神経泌尿器科であった。調査した年によって異なるが、腫瘍、小児、老年泌尿器科・前立腺肥大症、結石、腎不全・腎移植、オフィスウロロジーが続いた。

ダイバーシティ推進委員会 座長候補者リスト登録希望調査

日本泌尿器科学会ダイバーシティ推進委員会では、総会・支部総会などにおける女性座長の登用を推進する目的で、女性医師の専門領域を把握した上で座長候補者のリストを作成し、大会長へ提出することとしました。

以下のアンケートへのご回答につき、ご協力をお願いします。

お名前 *記述 必須

所属医療機関（例 ○○病院、△△大学）*記述 必須

当委員会の座長候補者リストに、あなたの情報を登録してよろしいですか *ラジオボタンでいずれか1つ選択 必須

- はい
- いいえ

上記設問で「いいえ」とご回答の先生へ、理由をお願いします *ラジオボタンでいずれか1つ選択

- 現状では受諾が困難だから
- 学会座長に興味がないから
- その他 _____

所属支部 *プルダウンリストより1つ選択 必須

1. 東部A
2. 東部B
3. 中部
4. 西部
5. わからない

現在の役職 *プルダウンリストより1つ選択 必須

1. 教授
2. 准教授、講師
3. 教育施設の部長
4. その他

専門医更新回数 *プルダウンリストより1つ選択 必須

1. 1回
2. 2回
3. 3回
4. 4回以上

Fig. 1A 2021 アンケート (続き)

学位の有無 *ラジオボタンでいずれか1つ選択 必須

- あり
- なし

メールアドレス *記述 必須

登録したい専門領域をお答えください (第一希望) *プルダウンリストより1つ選択 必須

1. 小児
2. 腫瘍
3. 腎不全・腎移植
4. 尿路結石
5. 女性泌尿器科
6. 内分泌・生殖機能・性機能
7. 副腎・後腹膜
8. 老年泌尿器科・前立腺肥大症排尿機能・神経泌尿器科
9. 排尿機能・神経泌尿器科
10. 外傷・救急医療
11. エンドウロロジー・腹腔鏡
12. 医療制度・保険等
13. 基礎研究
14. オフィスウロロジー

登録したい専門領域をお答えください (第二希望) *プルダウンリストより1つ選択、リストは第一希望と同じ

サブスペシャリティの資格をご選択ください *チェックボックスリストより複数選択

- 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
- 日本排尿機能学会認定医
- 日本透析医学会専門医
- 日本内分泌学会専門医
- 生殖医療専門医
- 日本臨床腎移植学会腎移植認定医
- 日本泌尿器内視鏡学会ロボット支援手術プロクター
- 日本小児泌尿器科学会認定医
- 日本性機能学会専門医
- 日本性感染症学会専門医
- その他

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。

ダイバーシティ推進委員会 座長候補者リスト作成のためのアンケート

日本泌尿器科学会ダイバーシティ推進委員会では、多様な人材の登用を促進する目的で、女性会員のサブスペシャリティを調査し、これに基づいて学会座長候補者リストを作成しています。以下のアンケートにご回答をお願いいたします。

メールアドレス *記述 必須

お名前 *記述 必須

当委員会の座長候補者リストに、あなたの情報を登録してよろしいですか *ラジオボタンでいずれか1つ選択 必須

- はい
- いいえ

上記設問で「いいえ」とご回答の先生へ、理由をお願いします *ラジオボタンでいずれか1つ選択

- 現状では受諾が困難だから
- 学会座長に興味がないから
- その他 _____

所属支部 *プルダウンリストより1つ選択 必須

1. 東部 A
2. 東部 B
3. 中部
4. 西部
5. わからない

所属医療機関 *記述 必須

現在の役職 *プルダウンリストより1つ選択 必須

1. 大学教授
2. 教授以外の大学職員（准教授、講師、助教など）
3. 教育施設の部長
4. 自施設の院長
5. その他

上記以外に役職（学外教授など）があれば記載ください *記述

Fig. 1B 2022 アンケート (続き)

日本泌尿器科学会専門医の更新回数をお答えください *プルダウンリストより1つ選択 必須

1. 1回
2. 2回
3. 3回
4. 4回以上

学位について *ラジオボタンでいずれか1つ選択 必須

- あり
- なし

登録したい分野をお答えください *ラジオボタンでいずれか1つ選択 必須

- 基礎研究分野
- 臨床研究分野
- どちらでもよい

登録したい専門領域をお答えください(第一希望) *プルダウンリストより1つ選択 必須

1. 小児
2. 腫瘍(腎癌)
3. 腫瘍(尿路上皮癌)
4. 腫瘍(前立腺癌)
5. その他の泌尿器腫瘍
6. 腎不全・腎移植
7. 尿路結石
8. 女性泌尿器科
9. 内分泌・生殖機能・性機能
10. 排尿機能・神経泌尿器科
11. 前立腺肥大症
12. 外傷・救急
13. エンドウロロジー・腹腔鏡
14. 医療制度・保険
15. 基礎研究
16. オフィスウロロジー

登録したい専門領域をお答えください(第二希望) *プルダウンリストより1つ選択、リストは第一希望と同じ

サブスペシャリティの資格をご選択ください *チェックボックスリストより複数選択

- 日本小児泌尿器科学会認定医
- 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

Fig. 1B 2022 アンケート（続き）

- 日本泌尿器内視鏡学会ロボット支援手術プロクター
- がん治療認定医
- 日本透析医学会専門医
- 日本臨床腎移植学会腎移植認定医
- 日本内分泌学会専門医
- 日本排尿機能学会認定医
- 生殖医療専門医
- 日本性機能学会専門医
- 日本性感染症学会専門医
- 漢方専門医
- その他

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。

Table 1 回答者プロフィール

		2021年	2022年
回答者数（人）		102	89
所属支部	東部 A	37	29
	東部 B	15	10
	中部	24	22
	西日本	26	28
役職	教授	3	3
	准教授・講師（2021年）	14	-
	教授以外の大学職員（2022年）	-	25
	教育施設の部長	12	11
	自施設の院長（2022年）	-	7
	その他	73	43
専門医更新回数	1回	27	22
	2回	27	22
	3回	20	23
	4回	28	22
学位の有無	有	62	55
	無	40	34

Fig. 2 リスト掲載の諾否

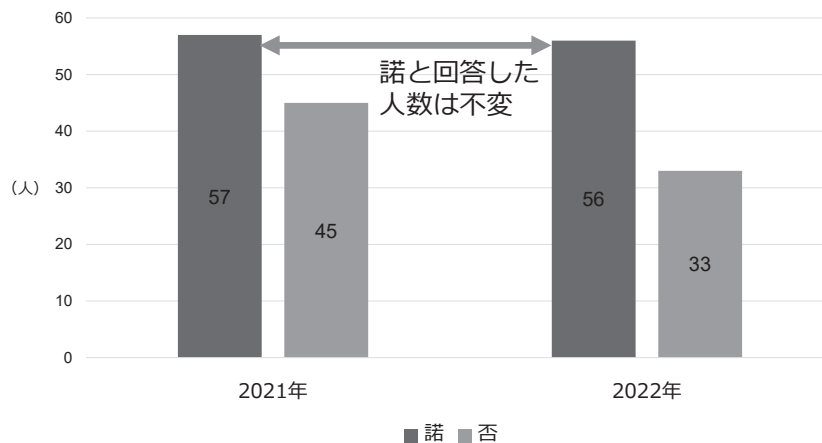
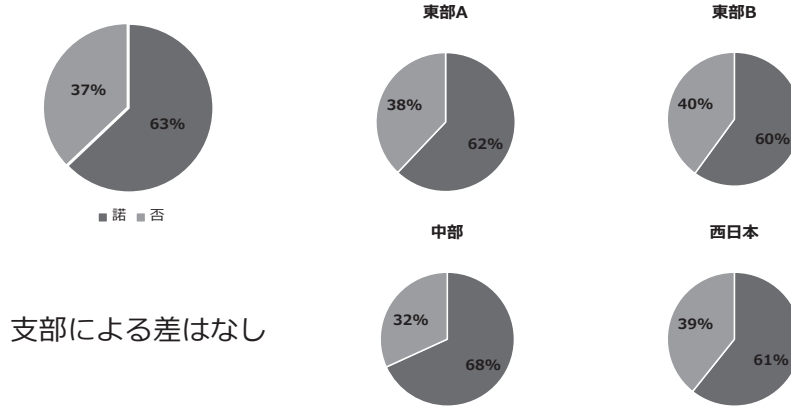


Fig. 3 支部別リスト掲載の諾否

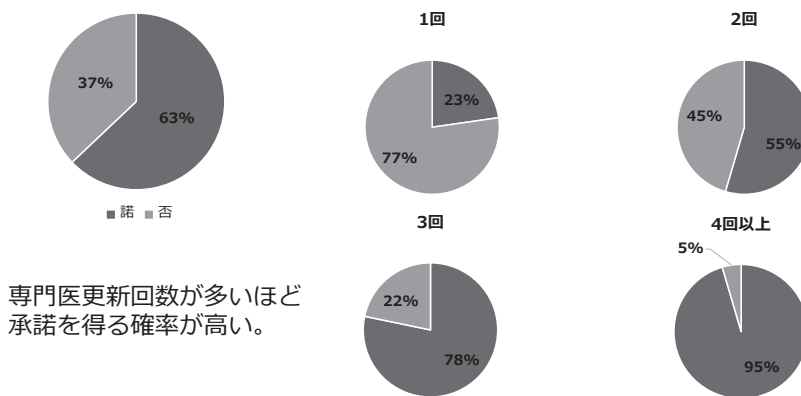
2022年アンケート結果



支部による差はなし

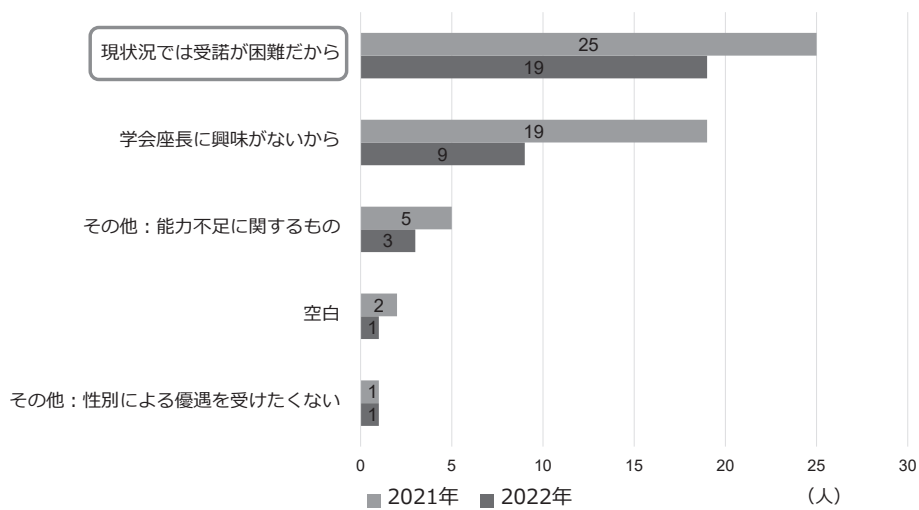
Fig. 4 専門医更新回数別リスト掲載の諾否

2022年アンケート結果



専門医更新回数が多いほど承諾を得る確率が高い。

Fig. 5 不承諾の理由



5) 保有資格について

Fig. 7は、保有資格に関する調査結果である。専門分野のアンケート結果では、排尿機能・神経泌尿器科を選択する医師が多かったことから予想されるように日本排尿機能学会専門医が最も多く、次いで、日本がん治療認定医、日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本透析医学会専門医、日本小児泌尿器科学会認定医と続いていた。ロボット支援手術のプロクター、日本性機能学会専門医、日本内分泌学会専門医、漢方専門医などを有する回答者も数名いた。

Fig. 6 座長希望専門分野

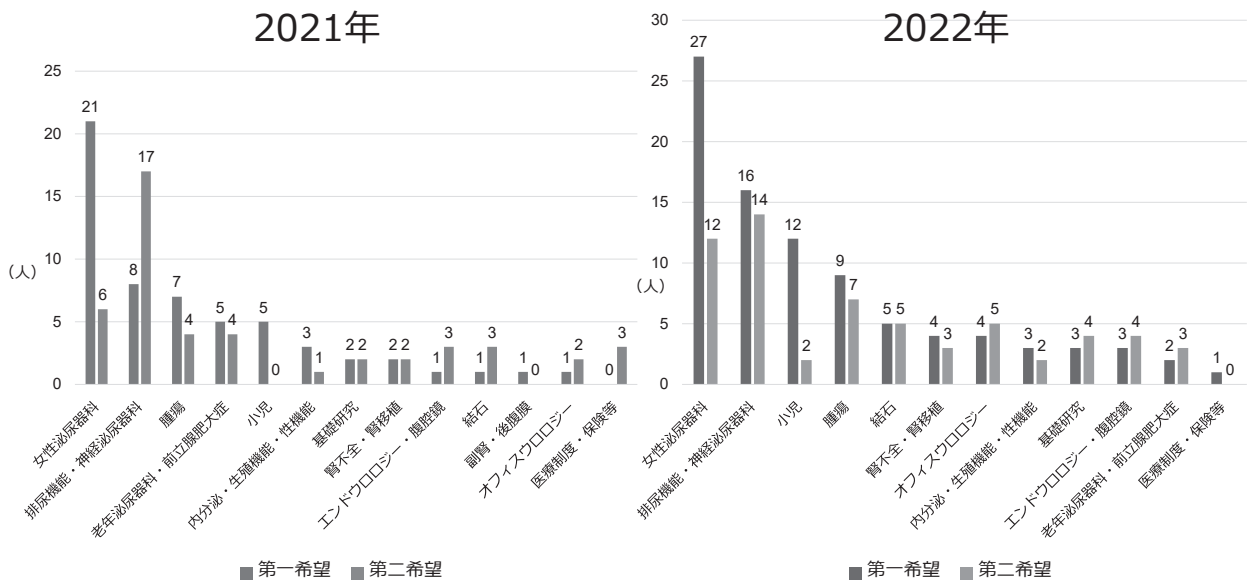
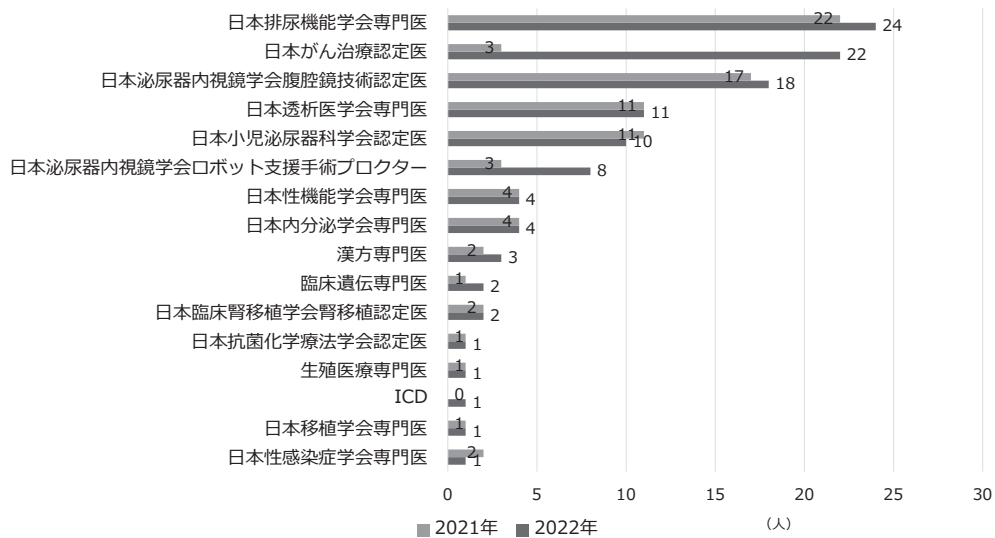


Fig. 7 サブスペシャリティ資格



6) 座長リスト作成後の座長数, シンポジスト数の変化について

日本泌尿器科学会総会におけるシンポジウム, 一般演題の座長数, ならびに女性座長数, シンポジスト数と女性シンポジスト数を Fig. 8 に示す. シンポジウムには, パネルディスカッションやワークショップなどのセッションも含め, ダイバーシティ推進委員会企画は除いたものとした. 「JUA Future Vision 2018」において, 男女共同参画に関する提言は「ポジティブ・アクションの採用」と「イクボス宣言のすすめ」であった. ポジティブ・アクションに関する具体的な提言の一つは総会などの座長において, 女性医師の一定比率 (3%以上) の採用である. 3%という比率については, 2018年のJUA会員の年齢別内訳から, 指導者数を40~60歳代と定義した場合, 男性医師数5,457名, 女性医師数245名, 総医師数5,702名であり, 女性医師の割合が4.3%程度と推測されたところから算出された. 残念ながら, 提言後に女性座長数, シンポジスト数は増加がみられなかった. ダイバーシティ推進委員会では, JUAの理事会へ女性登用に関する要望を行い, 具体的な項目の一つに女性座長比率3%以上の採用を挙げた. 2021年から作成したリストを大会長に提出し, 活用を依頼した. 2022年は総会が開催されなかったため, 2020年までと2021年とで比較した. 2018年, 2019年, 2020年, 2021年でシンポジウム座長の女性比率は1.8%, 1.7%, 3.0%, 3.7%, 一般口演座長の女性比率は3.5%, 1.1%, 2.7%, 14.9%, ポスターセッション座長の女性比率は, 0.9%, 2.6%, 0%, 8.6%であった. 年によるバラツキはあるものの座長リストを配布した2021年はすべての項目で女性座長数は3%を上回った. また, シンポジストも2.4%, 2.1%, 2.9%, 4.9%と2021年から3%以上を占めるようになった. 同様に Fig. 9 に各地区総会における座長数ならびに女性座長やシンポジスト数を示す. 一般口演座長の女性比率数は, 中部を除いて, 2019年までは0%に近かったが, 2021年以降は, いずれの学会でも4.3%以上に増加した. 新型コロナウイルスの感染対応のため, 2020年, 2021年の東部, 2020年の西日本が完全Web開催となり, ポスター発表が行われなかった開催も複数あったため, 今回のデータでは示

Fig. 8 日本泌尿器科学会総会
座長・シンポジスト数

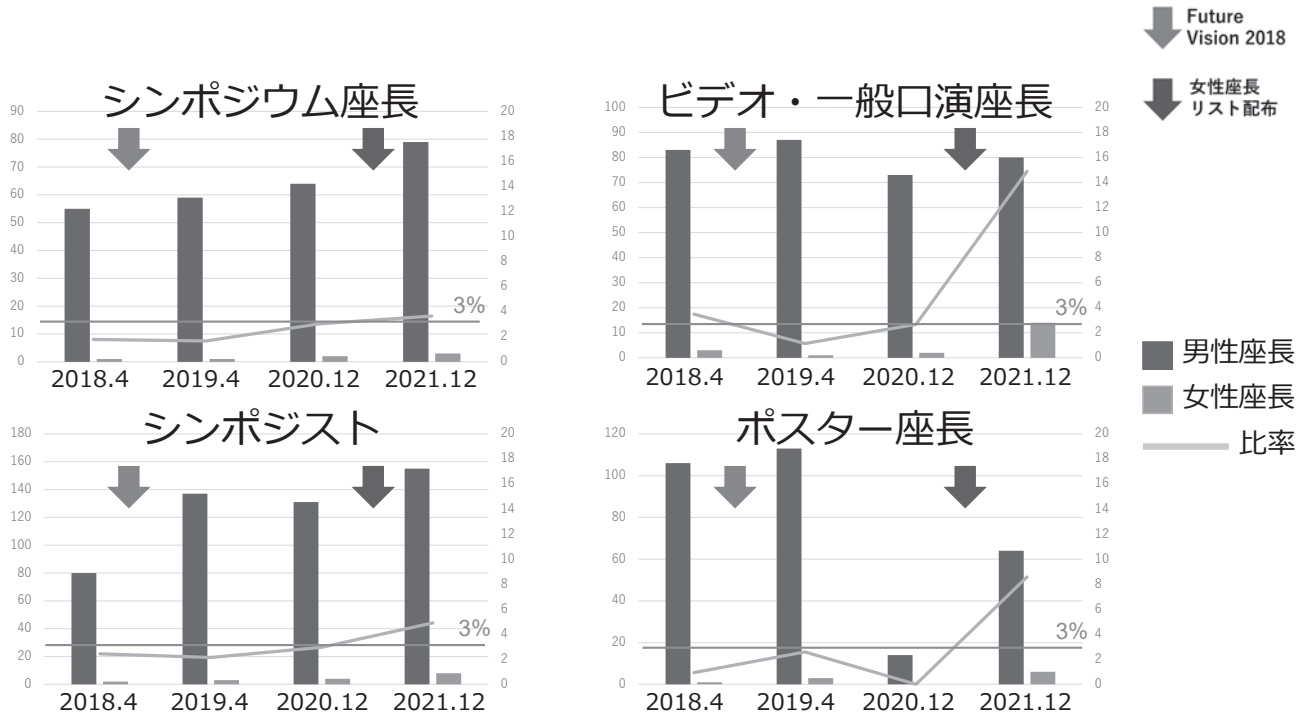
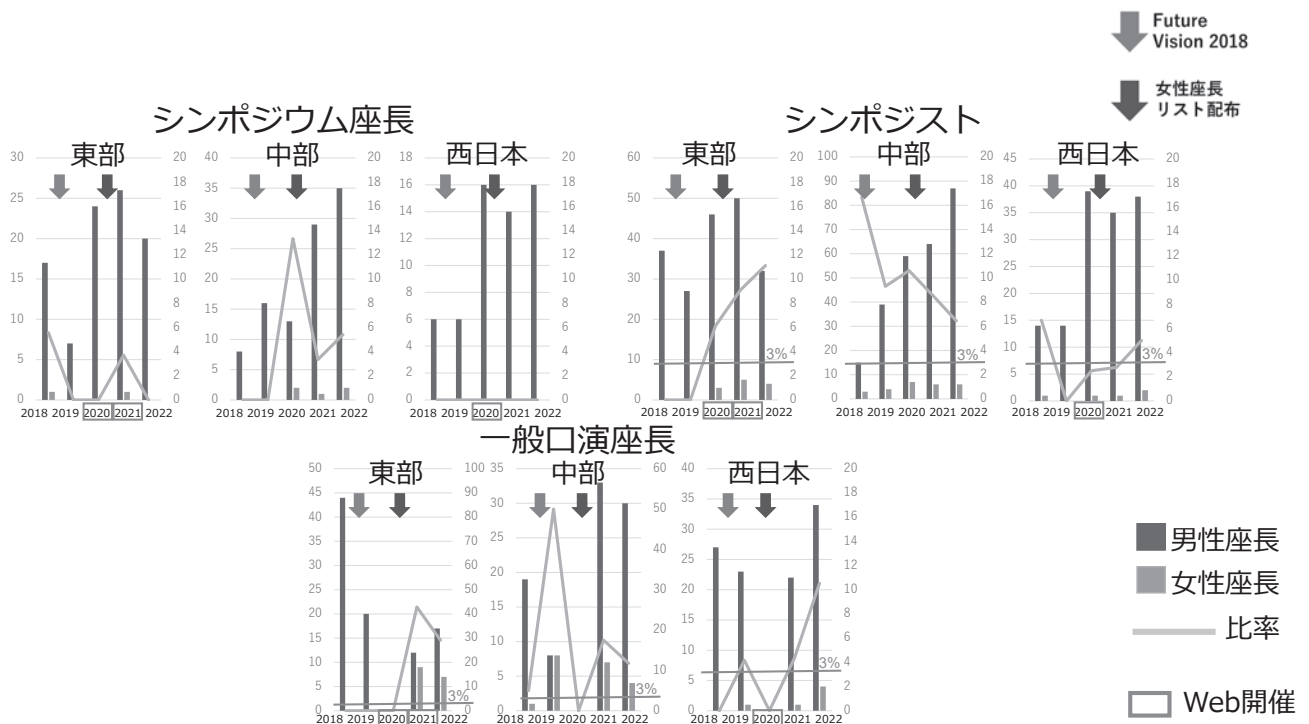


Fig. 9 日本泌尿器科学会支部総会
座長・シンポジスト数



していない。シンポジウムの座長は、女性が0の学会もあり、今後の登用が期待される。シンポジストに関しては、2022年にすべての地区総会で5%以上となった。

考察

多様性のある組織では、優秀な人材を確保し、創造性や革新性が高まり、競争力が強化され、パフォーマンスが向上することが知られ、医療分野においてもダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DE&I) に取り組む学会が

増加している。JUA 会員は、女性医師が年々増加してはいるものの、約 8.5%とまだ少なく、理事や代議員、各種委員会など意思決定組織に女性はほぼ存在していない。この傾向は AUA (American Urological Association) や SUO (Society of Urologic Oncologists), SUFU (Society of Urodynamics, Female Pelvic Medicine and Urogenital Reconstruction), SPU (Society of Pediatric Urology) などにおいても同様である¹⁾。学術集会においても「Manel」と呼ばれる、男性演者のみによるセッションが、2019 年から 2020 年の間に開催された AUA, EAU (European Association of Urology), ICS (International Continence Society) など泌尿器科領域の主要な学会で行われた 285 セッションのうち 63.5% を占めていたことが報告されている²⁾。我々が調査した JUA の総会や地区総会におけるシンポジウムや一般演題の座長、シンポジストも一部のものを除いて、女性の割合は非常に低かった。女性泌尿器科医を積極的に登用することで、多様性が推進され、更に発展性がある学会となることが期待できる。女性の演者は、座長やモデレーターに女性が含まれる場合やセッションの時間が長く、演者数が多い場合に増加することも示されていた²⁾。今後の学術集会を企画する場合には、女性座長の登用に加え、セッションの時間設定を長くすることや演者数を増やすことも検討を依頼する。

座長候補者リストへの掲載に対し「不承諾」と約 40%が回答していた。不承諾の理由として、回答者自身の経験や能力が不足しているとのコメントも見られた。日本循環器学会女性循環器医コンソーシアムは以前より女性座長の増員を要望しており、女性医師や若手医師の座長就任促進のために「初めての学会座長の手引き」を作成している。この手引きは、座長経験者にとっても有用なものである。我々も総会や地区総会時に開催するダイバーシティ推進委員会プログラムにおいてプレゼンテーションやファシリテーションに関する講演などを企画・実行し、座長を受諾するためのハードルを下げるよう取り組んでいる。

また、海外では、女性登用を進めるために Society of Woman in Urology Speaker Database といった優秀な女性演者のデータベースも構築されており、一般に公開され、AUA にも供給されている。2021 年からダイバーシティ推進委員会が作成した女性座長候補者リストは、2021 年の日本泌尿器科学会総会、2021 年以降の各地区総会会長に提出したことで、いずれの学会でも女性座長率 3%以上を達成することができた。座長候補者リストの作成を契機として、更にシンポジウム座長やシンポジストに女性の活躍の場が増えることを期待している。座長候補者リストの調査項目や今後の継続については検討中であるが、女性泌尿器科医の増加は 40 歳未満で著しく、益々これからの若い世代の活躍が望まれる。性別や年齢、学歴などに問われない多様性のある学会が開催され、リストの存在が不要となることを切に願っている。

謝辞

アンケート調査の実施を快諾いただいた理事会の皆様、アンケート調査にご協力いただいた回答者の皆様、そして勇気を出して座長を引き受けていただいた皆様、座長リストを活用いただいた各学術集会の大会長並びに大会関係者の皆様、実施に際してご協力いただきました日本泌尿器科学会事務局の及川美菜子様にご心よりお礼申し上げます。

参考文献

- 1) Chyu J, Peters CE, Nicholson TM, Dai JC, Taylor J, Garg T, Smith AB, Porten SP, Greene K, Browning N, Harris E, Sutherland SE, Psutka SP: Woman in leadership in urology: the case for increasing diversity and equity. *Urology*, 150, 16–24, 2020
- 2) Teoh JYC, Castellani D, Mercader C, Sierra A, Heldwein FL, Chan EOT, Wroclawski ML, Sapulveda F, Cacciamani GE, Rivas JG, Murphy DG, van Oort IM, Loeb S, Ribal MJ: A Quantitative analysis investigating the prevalence of “manels” in major urology meetings. *Eur Urol*, 80, 450–453, 2021 e4–e6, 2019